



株主説明資料

2016年1月28日
株式会社SJI

Copyright© 2016 by SJI Inc.

No part of this publication may be reproduced, stored in retrieval system, or transmitted in any means --- electronic, mechanical, photocopying, recording and otherwise --- without permission of the SJI. This document provides an outline of a presentation and is incomplete without accompanying oral commentary and discussion.

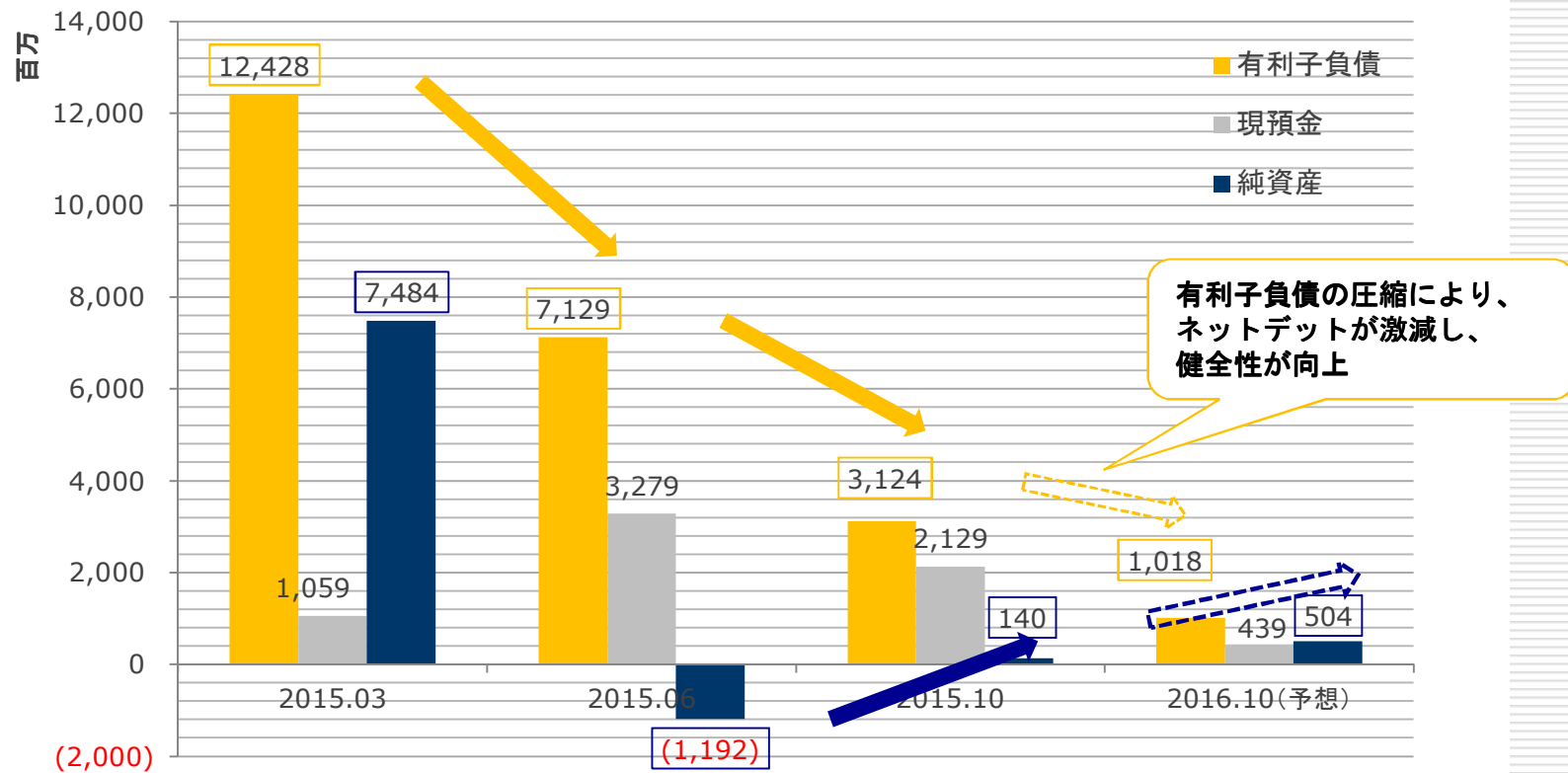
株式会社 SJI

Agenda

1. 前期の実績
2. SJIの現有の戦略資産
3. 外部環境の変化(FinTech)
4. SJIの今後の取り組み・見通し
5. まとめ

1. 前期の実績

前期は過去の問題を踏まえた改善に取り組んできました。今期からはいよいよ本格的な成長に向けた業務の推進にも注力してまいります。

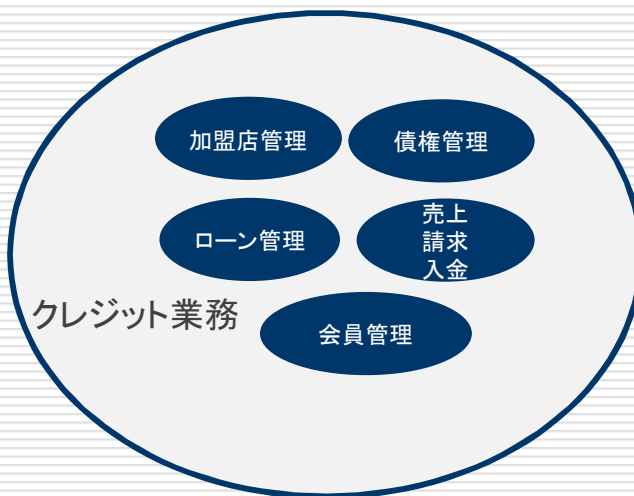
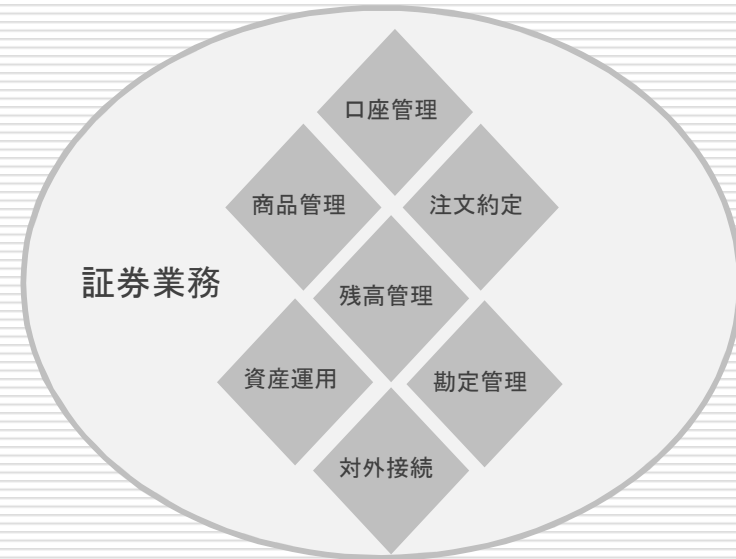


12月の社内調査委員会の調査報告を受けて、現在は元取締役への刑事責任問題

債務超過解消によりGC注記解消

2. SJIの現有の戦略資産

40年余りに渡り、システム構築・移行・保守運用までノウハウや実績のある「金融分野」が主領域であり、成長の実現に向けて今後も投資を加速していく予定です。



銀行業務に関しては、日銀の銀行間決済システムをはじめ、銀行業務の勘定系・預金・為替・融資・外為・投資信託・営業店端末など伝統的な銀行業務以外に、インターネットバンキング・銀行の情報系システム・社内ポータルサイトなど多種多様な業務関連システム構築に参画して来ました。3つの大手都市銀行をすべて経験しております。

証券業務については、注文約定・商品管理・残高管理・勘定管理・口座管理・対外接続・資産運用などのメイン業務システム開発に参画し、大手証券会社のみならず、金融商品取引所・信託銀行など業務にも携わっています。

クレジット業務においては、会員管理・ローン・債権管理・加盟店管理・売上請求入金等の業務領域におけるシステム開発の経験があります。

2. (参考)金融分野におけるSJIの実績

実績	概要
日銀RTGS (流動性管理システム)	日銀ネット接続のRTGS(銀行間のリアルタイム決済)パッケージシステムの開発。2001年1月から導入されているRTGSは、日中即時決済を可能にしたシステム。RTGSは各銀行・証券会社の流動性資金(債券等を含む)管理を行う。ミッションクリティカルなパッケージソフトの開発で、初期開発以降、制度変更対応、機能追加などのメンテナンスも継続して実施し、業務・システム構築・運用保守に渡って経験を蓄積している。
個人インターネット バンキングシステム	2001年より、都市銀行やネット専門銀行のインターネットバンキングシステム開発に携わっている。普通預金、定期預金、外貨預金、投資信託、国債、住宅ローンなど広い業務範囲に渡っている(りそな銀行、セブンバンクなど)。
給与振込業務	20年余りに渡って大手都市銀行の給与振込などの送金業務に関連するシステムの運用・保守に参画し、豊富な業務経験とシステム構築に関するノウハウを蓄積している。
営業店システム	長年にわたって金融機関の営業店システムの開発・導入・運用保守に携わっており、勘定系・複合業務系・役席など端末の業務機能・制御機能に精通し、為替集中・事務集中・印鑑照合などバックオフィス系システムの開発を担当し、複数メカの端末を対応した経験がある。
証券・保険・クレジットカード関連	外貨有価証券・株券電子化・株式売買管理などの証券関連業務システム、代理店・新契約・収納などの保険業務関連システム、会員管理・債権管理・加盟店管理・売上請求入金などのクレジットカード関連業務システムなどの開発を多数参画して来た。

3. 外部環境の変化(FinTech) – FinTechへの注目

特に近年、金融(ファイナンス)領域における新たな技術(テクノロジー)との融合は「FinTech(フィンテック)」と呼ばれ、様々なイノベーションを創出する重要分野となっています。

Finance

×

Technology

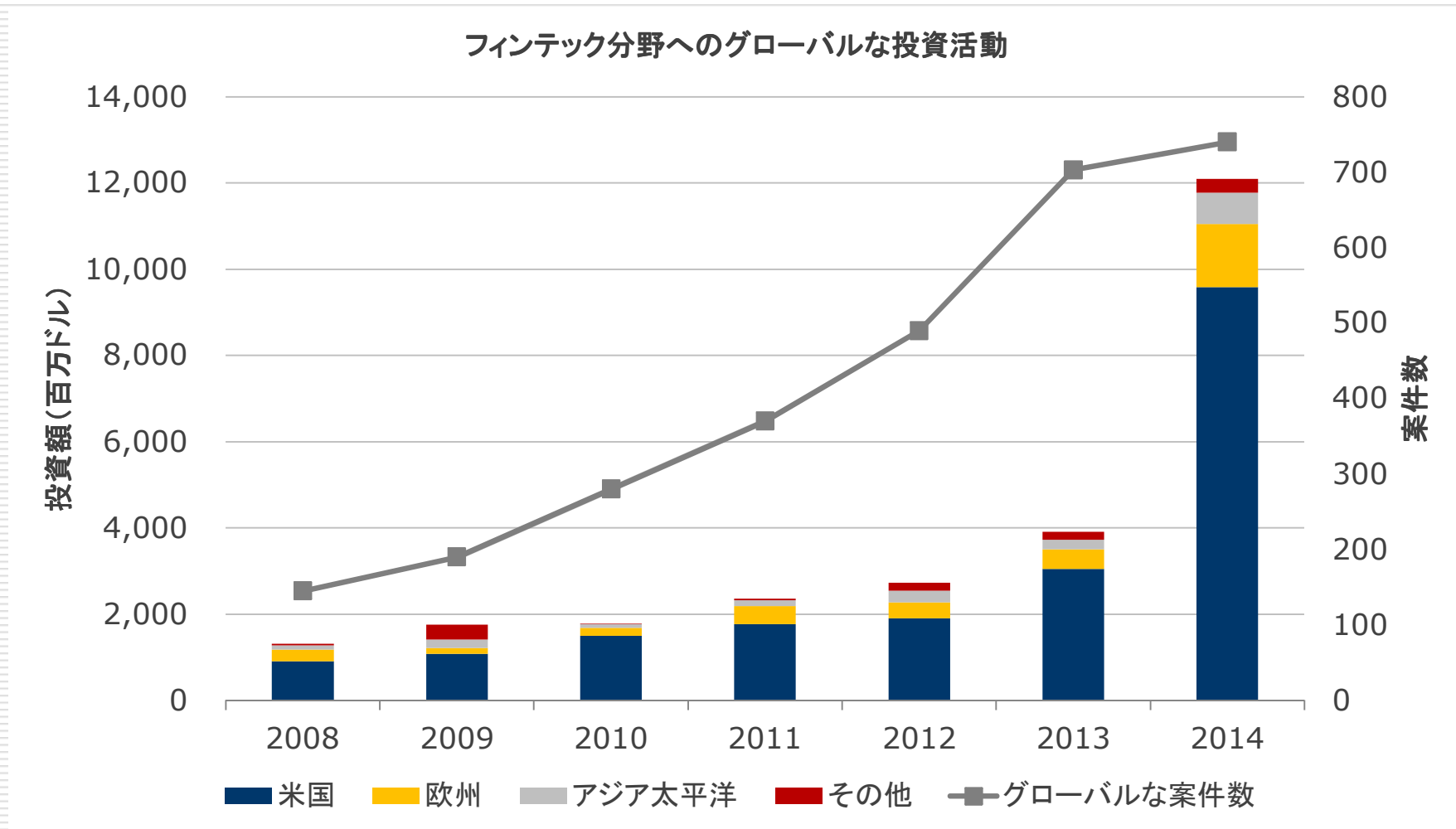
=

FinTech

決済	×	インターネット	=	(モバイル/Web)決済
送金	×	スマートフォン	=	(低コスト)海外送金
資産管理	×	ソーシャル	=	PFM
会計	×	クラウドコンピューティング	=	経営・業務支援システム
融資	×	ビッグデータ	=	投資支援
投資	×	P2P(Peer to Peer)	=	クラウドファンディング
資金調達	×	人工知能	=	オンライン融資
貨幣	×	ブロックチェーン	=	Bitcoin
・		・		・
・		・		・
・		・		・

3. 外部環境の変化(FinTech)- FinTechの投資規模(グローバル)

FinTech市場は2014年より急拡大し、グローバルで120億ドル(1.4~1.5兆円)まで急増しています。

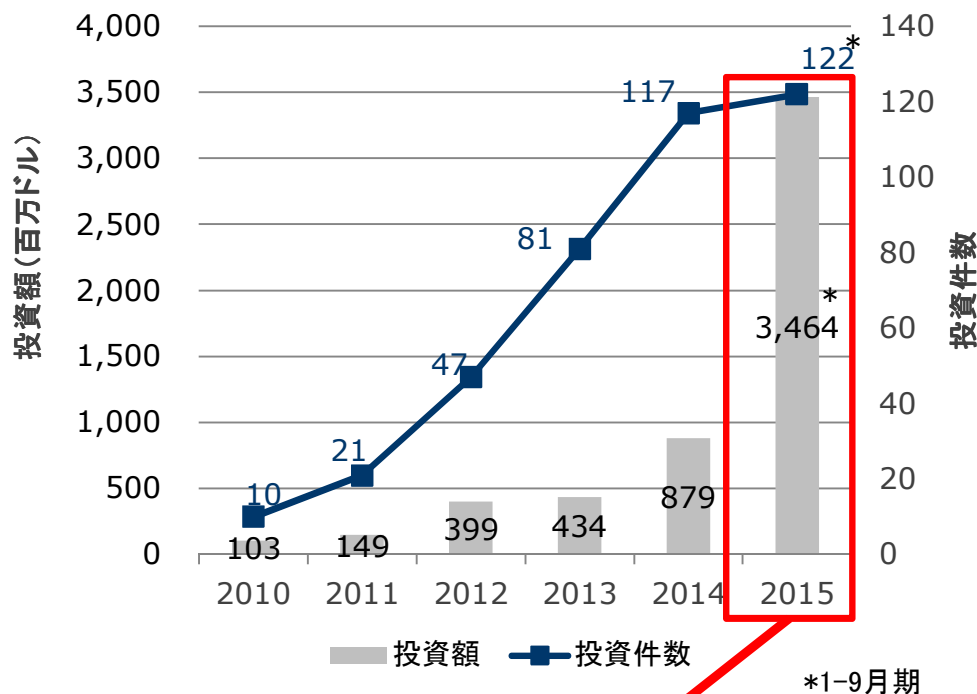


出典) アクセンチュア レポート「フィンテックと銀行の将来像」

3. 外部環境の変化(FinTech)– FinTechの投資規模(アジア・パシフィック)

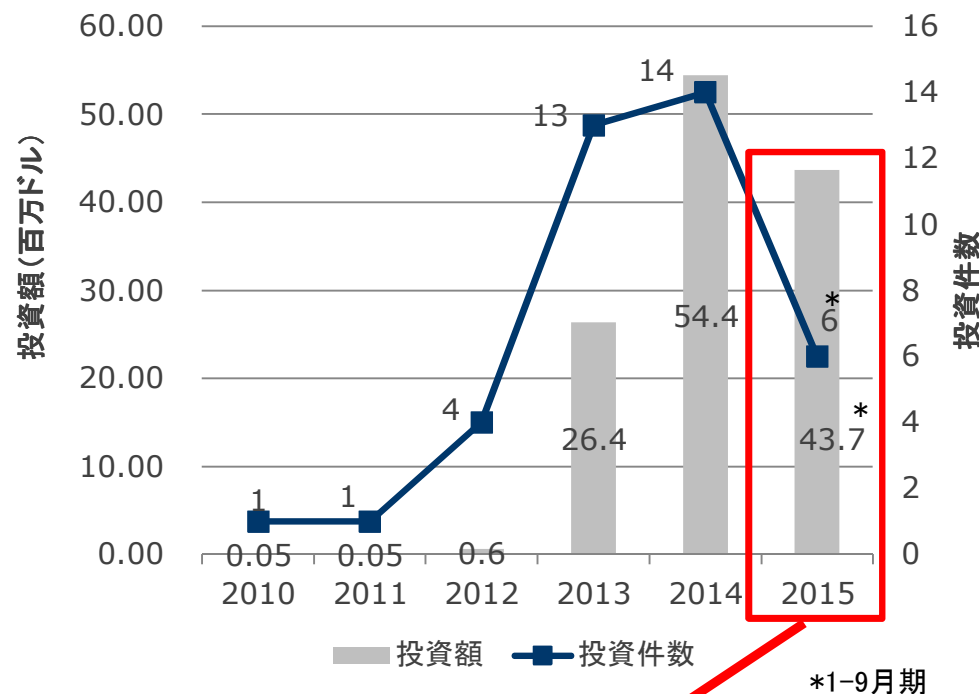
世界的なトレンドと呼応し、2015年に入り、アジア・パシフィックにおける投資規模も急伸しておりますが、日本のポジションは相対的に遅れておりました。

アジア・パシフィック地域における
フィンテック分野への投資案件数および投資額



2015/10/1現在
アジアパシフィックで
約35億ドル
(≒4,000~4,200億円)

日本における
フィンテック分野への投資案件数および投資額



2015/10/1現在
日本で
約4,400万ドル
(≒51~52億円)

出典) アクセンチュア ニュースリリース (2015/11/15)

「アクセンチュア最新調査—2015年における日本でのフィンテック投資は堅調に推移、アジア・パシフィック地域における投資額は前年比4倍以上に急増の見通し」



3. 外部環境の変化(FinTech)-日本における取り組み

ただ、日本でも遅ればせながらFinTechにとって追い風となる各種取組が開始されており、当該分野の急速な発展が予想されます。

・テクノロジーの進歩

：電子化の推進、インターネットの普及によるビッグデータの蓄積およびビッグデータの高速処理を可能にするコンピューティングパワーの向上

・金融商品取引法の規制緩和（2015年5月）

：金融機関が、決済など金融事業に関わるIT企業などに投資・出資、あるいは傘下に持つことが可能に

・銀行業法の規制緩和（予定）

：金融庁が「金融グループを巡る制度のあり方に関するワーキング」で、FinTechの台頭など金融をめぐる環境が急速に変化していることを受けて、銀行業の業務範囲規制を柔軟にするべく議論が進行

・金融機関や大手金融系企業のFinTech促進活動

：金融関連企業がコンテストやハッカソン等を開催し、新規金融サービスを発掘する動き

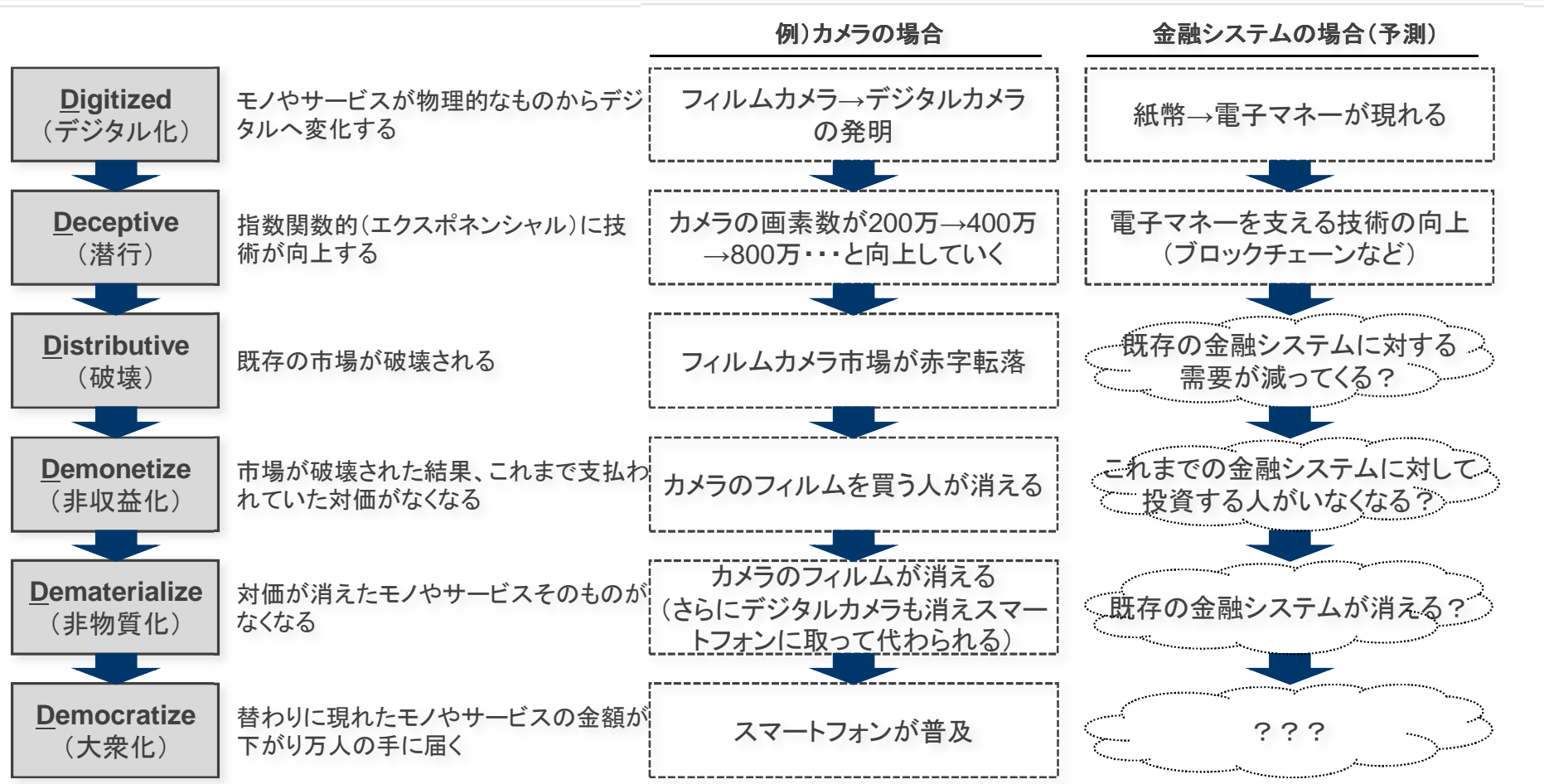
Ex.1) 2015年2月 楽天株式会社 「楽天金融カンファレンス」
業界の枠を超えてオピニオンリーダーがディスカッションし、新たな金融サービスを生み出し育てていこうという試み

Ex.2) 2015年6月 三菱東京UFJ銀行 「Fintech challenge」
個人応募も含むコンテストにより新規金融ビジネスを発掘し事業化しようとする試み

3. (参考) デジタル化による金融システムの未来予測

他の多くの製品・サービスと同様、金融システムもフィンテックによるデジタル化が開始しており、その技術が今後指数関数的に飛躍すると既存のシステムが置き換わる可能性が考えられます。

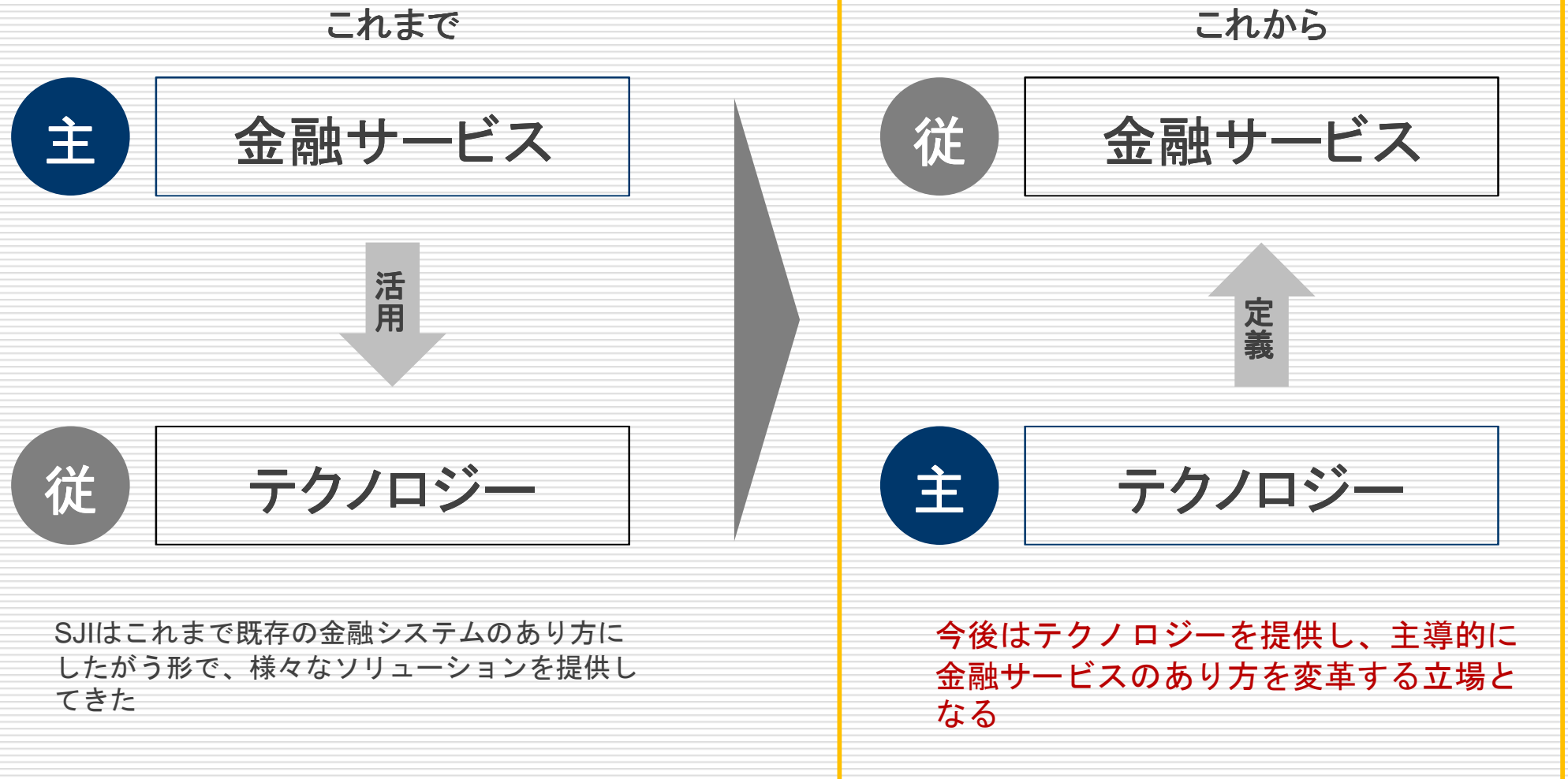
《デジタル化による発展プロセス》



参考) ピーター・H・ディアマンドイス、スティーブン・コトラー「BOLD 突き抜ける力」

4. SJIの今後の取り組み・見通し

今後SJIは、既存の金融システムの仕組みに捉われず、テクノロジーを駆使して新しい金融サービスを提供することで、FinTech分野でのリーディングカンパニーを目指していきます。



参考) 野村リサーチ・アンド・アドバイザーズ株式会社「ベンチャーアナリストが見るFin Techの本質と成功要因」

4. SJIの今後の取り組み・見通し- ①テックビューロとの協業

SJIはブロックチェーン技術を活用したFinTechに強いテックビューロ株式会社の協業を開始いたしました。ブロックチェーン技術の金融機関向けの商品化を目指します。

《テックビューロとの協業による狙い》

1	実証実験	SJIがシステム構築のノウハウと技術力を生かして、早い段階でmijinの実証実験に参画し、mijinに関するノウハウを蓄積し、mijinによるシステム構築パートナーを位置を確定する。
2	mijinを利用したシステム構築	SJIのシステム構築のノウハウ・技術力・業務経験を活かして、システムの提案・構築において協業する。
3	mijinを利用したシステム提案による新たなビジネス創出	mijinの強みを活かして新たなシステム構成を共同に提案・構築する。
4	mijinで構築したシステムの運用保守	mijinに関するノウハウを活かしてmijin技術を利用したシステムの運用保守マーケットを狙う。
5	mijinを利用したサービスの模索	自社の業務ノウハウと技術力を活かして、自社サービスを創出する。

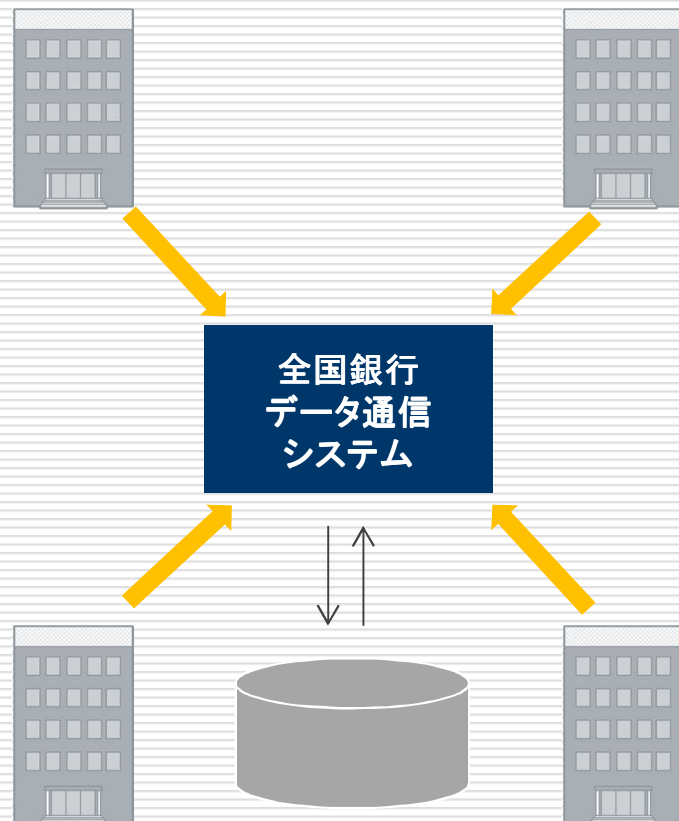
※mijin=テックビューロの提供する、プライベート・ブロックチェーンのプラットフォーム
「mijin」は、テックビューロの商標です。

SJIは金融分野でのシステム開発の豊富な実績から、現状の仕組みの弱点を理解している為、mijinのような先端技術とのコラボレーションにより画期的なサービス、価値を創出可能になります

4. (参考) インフラとして注目されるブロックチェーン技術

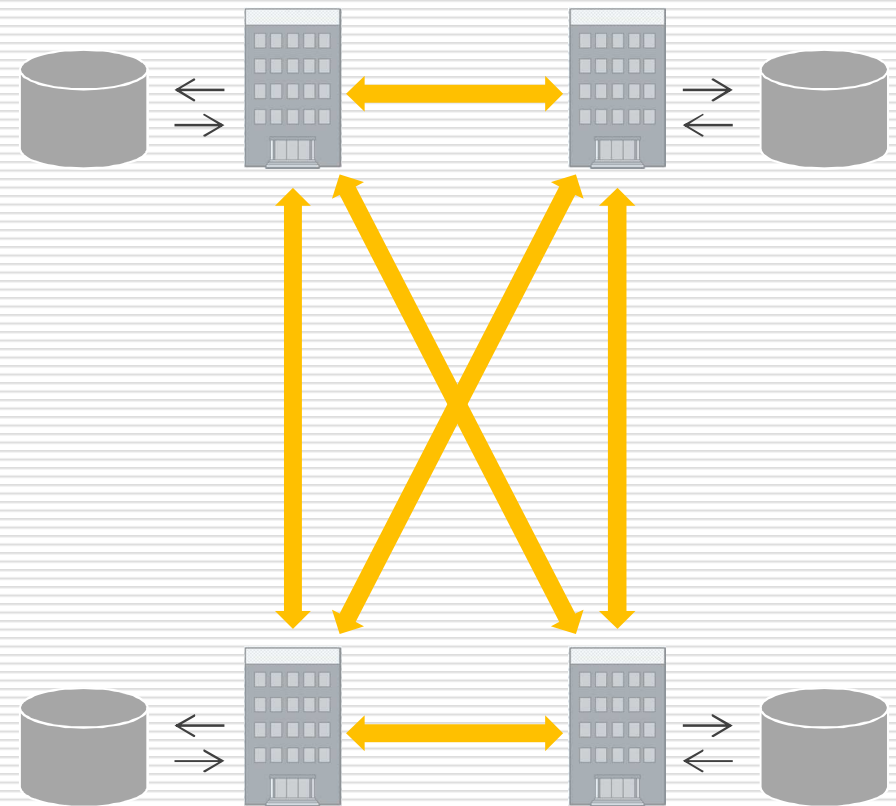
現在の中央集権的で高コストな銀行決済システムと比較して、ブロックチェーンは低コスト・ゼロダウンタイム・高いセキュリティ性を実現可能で、社会インフラを刷新する可能性があると考えられています。

現在の銀行決済システム



すべての金融機関が参加しているため、処理速度が遅い、仕様変更が困難、制限が多い等のデメリット有

ブロックチェーンを使った決済システム



P2Pで実現するため、全国銀行データ通信システムの持つデメリットを低コストで改善可能

参考) 野村リサーチ・アンド・アドバイザー株式会社「ベンチャーアナリストが見るFin Techの本質と成功要因」

4. SJIの今後の取り組み・見通し- ②フィンテック戦略室の設置

また、さらに様々な分野での事業機会に対応すべく、組織としてもFinTechを推進する体制を構築いたします。

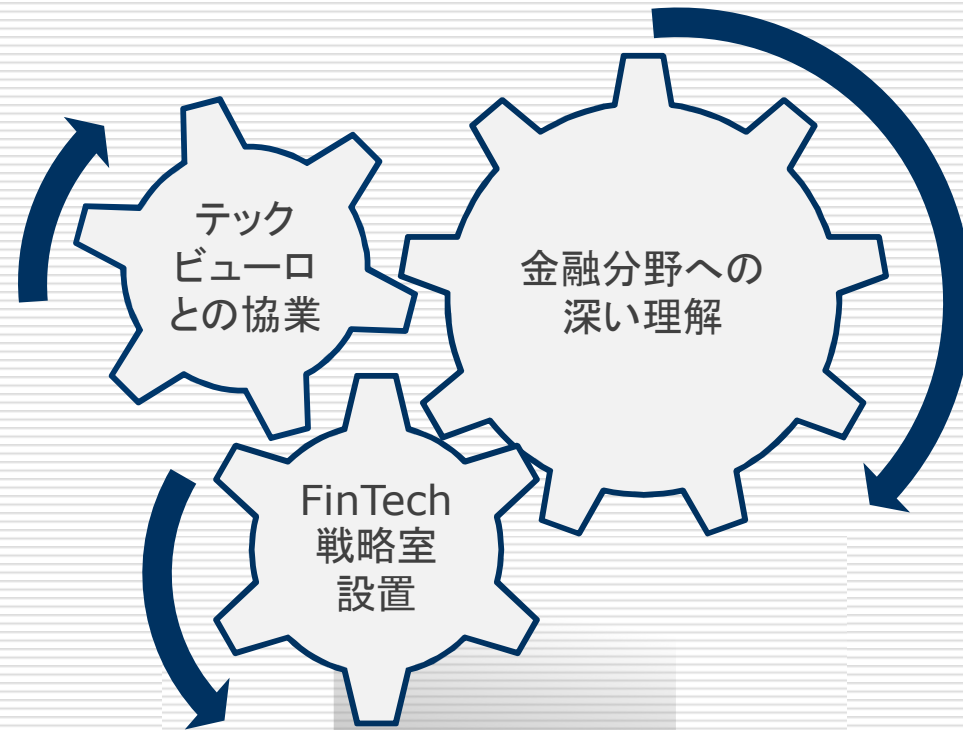
2016年2月1日付 SJI組織図



5. まとめ

SJIは、

- ・40年余りの豊富な実績を通じた、金融分野の業務・技術への深い理解
- ・近年成長著しいFinTechに対応する体制
- ・FinTechの中でも注目されているブロックチェーン技術に明るい、テックビューロとの協業を主軸に各種取組を行うことでFinTechを推進し、金融サービスの変革者となってまいります。



金融サービスを変革